

2018年3月期 決算説明会 Q&A サマリー

Q:2019年3月期の自動機は、どのような対策を打ち増益を目指すのか

A:製品の原価低減、要員数の適正化、設備投資と開発投資を見直します。

Q:2018年3月期は NAND、2019年3月期は DRAM が主流となる半導体設備投資の機器事業への影響と 2019年3月期を上期と下期に分けた時の見通し

A:3D-NAND の設備投資増加によりエッチング装置向けの需要が増えておりました。DRAM が主流になると、洗浄装置などでも需要増加が見込めます。また、2019年3月期上期は DRAM、下期は DRAM に加えて 3D-NAND、さらに LOGIC 向けも増加する可能性があります。

Q:USA テクニカルセンターは、お客様にどのようなアプローチをしているのか

A:USA テクニカルセンターは先端産業のお客様からの評価や試作要求などに対応しております。

Q:2018年3月期の電動商品売上が大きく伸びた要因

A:2017年4月に日機電装株式会社(CKD 日機電装株式会社)を経営統合しております。

Q:機器の海外売上が大きく増えている理由

A:半導体向けに加えて、二次電池や自動車関連、さらに自動化設備投資により空気圧機器、流体制御機器ともに増えています。

Q:機器の海外売上を増やすための方策

A:第3次中期経営計画に基づき、欧米への基盤強化に取り組んでいます。協業なども考えていきます。

Q:10年 VISION 機器売上高増加はどのような考えで進めていくのか

A:機器の海外売上比率は現在 30%程ですが、今後、海外売上をさらに増やしていきます。

Q:10年 VISION 自動機の売上高目標にリチウム電池巻回機売上を見込んでいるか

A:中国の国策により日本メーカーの参入は難しくなっていますので、見込んでいません。

Q:自動車の EV 化に伴う二次電池市場の拡大は、自動機械と機器のどちらにプラスの影響があるのか

A:どちらにもプラスの影響があると考えています。自動機械は日本国内の需要、機器はグローバルな需要の高まりに対応できると考えています。

Q:現在の部材の入荷状況、また、新工場建設に際して設備や装置が不足しないのか

A:比較的使用量が多い部材は、サプライヤー様から優先度を上げて納入頂いております。また、新工場で使用する設備や装置は事前に手配しており、新工場完成時には予定通り納入頂ける見込みです。